

学術ポータル担当者研修 プレゼンテーション報告書

大学名：追手門学院大学

受講者：13-2 図書館事務室 高畑悦子

13-1 事務システム運用担当 加瀬祐子

1. 状況設定

本学の場合、大きな新事業を提案する際には、まず常任理事会大学部会にかける必要がある。常任理事会大学部会には担当者レベルでの出席は不可能なため、会議の構成員である大学事務部長に趣旨を説明し、会議に諮るタイミング・アピールの方法を相談する。実際の会議には、大学事務部長から議題としてあげてもらおう予定である。そのため、の事前プレゼンテーションとなる。

2. 発表

(1)発表内容抄録

大学上層部に対して、機関リポジトリ構築について提案する。

機関リポジトリに関する理解は皆無といってよい。学内の発行紀要の電子化は一部を除いてほとんど進んでいない。著作権に関する執筆規程の変更も行われていない。CiNii への紀要論文の書誌データ登録も行っていない。

構築に際して、実務的な部分を担うべき図書館は、現在、専任職員は3名であり、業務委託によって日々の業務を行っている状況である。

(2)研修当日の講師からの助言

- ・プレゼンテーションに割り当てられた時間を厳守すること
- ・費用面でのアピールは、実際にはシステム構築費もかかるため薦められない
- ・ポイントを絞って説明すること

(3)研修発表との改定部分

- ・発表時間を意識して内容を圧縮する
- ・「コスト削減」の言葉を使用しない
- ・システムの経費がかかることはきちんと説明する
- ・オーストラリア大使館関係の文献整備に関して、オーストラリアから補助金がもらえる予定であることをアピールする
- ・本学がいかに文献の電子化が遅れているのかをアピールする

3. リハーサル・プレゼンテーションの概要

(1)日 時 2007年11月20日(火)

(2)場 所 本学 中央棟6階会議室B

(3)発表者 高畑悦子・加瀬祐子

(4)発表対象 常任理事会大学部会メンバー 大学事務部長 中井 隆

(5)参加人数 3名

4. リハーサル・プレゼンテーションの反響

大学事務部長は図書館職員としても経験もあったため、かなりの理解を得ることができたが、何の予備知識もない役員に説明して、理解されるかどうかは難しいのではという感想であった。後半の説明は次の段階とし、まずは本学の電子化がいかに遅れているかについて他大学との比較を説明したうえで、リポジトリは何かを分かりやすく説明した方がいいとの指摘を受けた。

5. 今後の予定

まずは補助金がもらえる予定となっているオーストラリア大使館関係の文献整備のために、基本的なシステム構築が可能となるため、それを基盤として他の文献にまで広げていきたい。

また、リポジトリとまではいかななくても、紀要などの電子化・公開等、基本的な事項については、すすめるための具体案を出していく予定である。ちょうど大学ホームページがリニューアルされる予定があり、今回の発表対象者である大学事務部長がその責任者であることから、紀要等の公開について協力が得られることとなった。

本学は、リポジトリどころか、紀要・論文等の電子化すら十分にできていないため、少しずつできるところから取り組んでいきたい。

以 上